



日本基督教団東京教区千葉支区研修会講演資料

2012年7月29日

## 「震災・原発事故と知的障害児・者福祉施設」

社会福祉法人 牧人会 理事長 山下 勝 弘

### 1、原発事故後の社会福祉施設（知的障害児、者施設）の現状

普通の生活の崩壊＝生活習慣、生活内容、行動規制、除染作業

社会福祉法人牧人会は、福島県・山形県に知的障害関係施設9施設及び障害者自立支援法関係20事業を実施している。東日本大震災では福島県内に所在する知的障害者更生施設あだたら育成園が地盤沈下による全壊状態、その他5施設も浄化槽設備等の被害を受けている。

原発事故による放射能被害では、福島県内の6知的障害児者施設、5児童デイサービス事業所、生活介護センター、6グループホームが、放射能の影響下におかれている。いずれも、除染が必要な状態である

原発事故の発生によって福祉施設を利用している障害者の生活内容は、大きく影響を受けている。従来の日常生活様式と内容を維持することが困難になっている。生活圏の制限、屋外活動の規制等の行動規制はもちろん、食料品の選択を含む食生活、社会参加活動にも影響が出ている。

除染活動は、現実的には、進展していない。児童が常時生活する知的障害児施設、幼児が利用する児童デイサービス事業所等では、自発的な小規模な除染作業が行

われているだけである。知的障害児施設のグラウンドは除染活動として表土の除去が行われたが、その除去した表土は、グラウンドの一部に保管されたままである。

### 2、基本的人権が侵害される深刻さと恐怖

人間存在、人権論の立場からの認識の検証と必要性和重要性

放射能の影響下におかれた生活は、生活領域にとどまらず人間存在の自由権が侵害された生活である。基本的人権の基礎的内容である「自己選択、自己決定による自己実現」が可能性が崩壊している状態である。また、風評被害の発生は物品の選別差別ではなく、人間の選別差別につながろうとしている。「地震」「津波」「原発被害」「風評被害」といわれているが、もっとも人間の社会意識と理性、良心と連帯性が関係する深刻な課題は風評被害であろう。

原発被害の検証、被害からの復興は、経済活動や、エネルギー問題の視点だけではなく人間存在、基本的人権の視点と立場から検証して、具体的な復興理念を確立し、政策提案をする必要がある。「脱原発」は同時に人間存在と人間性、人間の基本的権利を否定する社会から脱出、「脱原発社会」でなければならない。この意味を重

視した「脱原発」運動が重要であろう。

### 3、知的障害者と原発事故

二重のハンディキャップを背負う現実

原発事故による放射能汚染影響地域の一般住民の生活は、明らかに異常な社会環境での生活である。それは正常化（ノーマライズ）されるべき社会環境である。わたしは正常化（ノーマライズ）されるべき社会環境で生活する人間の苦悩、基本的人権が侵害された状況で生活する体験を今回の原発事故によって深刻に痛切に実感している。

この原体験によって、わたしはあらためて知的障害者にとって、ノーマライゼーションの現実化の意義を再確認させられている。1981年の国際障害者年以降、障害者、とりわけ知的障害者のノーマライゼーションの現実化が課題とされてきている。わたし自身もこの課題に積極的に参加し、現実化に努力してきたと自覚している。原発事故は、ノーマライゼーションの意義を主体的体験的にわたしに強烈に意識させたのである。

そして、わたしたちが支援している知的障害者は、原発事故以前の生活でノーマライゼーションの対象とされた課題を背負うとともに、今回の原発事故によ

て発生した正常化（ノーマライズ）されるべき課題を背負う存在として生活する現実と直面している。知的障害者は二重に正常化（ノーマライズ）される必要のあるハンディキャップを強いられる状況におかれていることを、認識させられたのである。

### 4、支援者の課題、責任と使命

ノーマライゼーションの視点と立場から  
原発問題に対決

わたしは課題、責任として、また使命として、知的障害者を含むすべての人が自由な立場で自己選択、自己決定による自己実現が可能な基本的人権が保障された確立している社会の実現、ノーマライゼーションの視点と立場から原発問題に対決する決意を新たにしている。

その決意を現実化する行動として、以下の活動の実践を約束し、また提案する。

- 1、客観的事実の探求と、主体的な理解（生き方の選択）
- 2、理解した内容を他者へ伝え、対話関係の確立
- 3、対話から連帯して隣人に仕える動きの実践
- 4、風化させないための継続的な隣人に仕える動きの展開



白河めぐみ学園敷地内の線量計。常に毎時間当たり 0.6 マイクロシーベルト以上の数値を示している。この場所は、児童の自立生活支援棟、職員宿舎に近い場所である。



改装落成した障害者支援施設あだたら育成園の進入路。そこには除染作業で除去した汚染土が青いビニールシートをかけて保管されている。最終的には、国が設置する最終保管場所へ搬入されることになっているが、その時期は全く不明である。



